

門司駅南側

16 柳の御所

菊の御紋



寿永2(1183)年の夏、山鹿(芦屋町)を通過して、この柳ヶ浦にのがれてきた平家は、この地に、安徳天皇の住まれる御所を造営されました。現在、戸上神社のお旅所となっており、境内には、平氏が都を偲んだ三基の歌碑があります。

17 風呂の井戸

ここに池があり鏡が池と言われて、夏にも枯れず名水でした。源氏に追われた平家の一行がこの地に着いた時、安徳天皇をはじめ一行の旅の疲れを癒すため、この池の水を風呂の水として使われたことから、この池のまわりを整えて「風呂の井戸」と言われるようになりました。



18 戸上神社

寛平年間(889~898年)柳ヶ浦の漁夫が海中から玉を引揚げました。その後、神が夢に出てきて「鶏の声のしないところ(こしり)に祀るよ」とお告げがあり、枝折戸のせて山頂に祀ったのが起こりです。山を戸ノ上山、神社を戸上神社と言うようになりました。また、久留米藩が寄進した鳥居や絵馬などがあります。



19 満隆寺

大同2(806)年、唐から京都に帰る途中だった空海は戸ノ上山を礼賛し下船しました。そして、草坊を開き観音像を安置し、密法を修めたのが起こりです。昔は六坊を抱えた壮大なお寺でした。



20 静泰院

静泰院は小笠原出雲守長俊(小倉藩初代藩主 小笠原忠真の弟)の菩提寺です。静泰院が北豊第一の禅林として名を知られるようになったのは、江戸時代に有名な僧「蘭山」が入山してからのことでした。この蘭山の学徳を慕い修行するため、全国から、多くの僧が集まって来ました。蘭山がいた28年間に、数千人の僧が教えを受けましたが、修行中に亡くなった僧も多く、その人たちのお墓が今なお残っています。



関門海峡

